



西播磨 地区

伊和神社

宍粟市出身の稲田耕一（いなだこういち）の著書「かわた村は大騒ぎ」によると、獣や牛馬を扱う仕事を業合とする村は差別の対象となった。この村を巡り、近隣の村々との騒動の舞台となったのが伊和神社。



柳田國男生家

柳田國男は日本民俗学の創始者として知られる。民俗学的手法を通じて、被差別の立場にある人々の歴史にも積極的にアプローチした。農民を中心とする庶民や平民などを「常民」と名付け、「常民」の声なき声を聞く日本民俗学を育んだ。生家は移築・保存され、往時を偲ばせている。



斑鳩寺供養塔

聖徳太子ゆかりの寺である斑鳩寺には、この地を領有した赤松父子の供養塔がある。その裏面に、朝鮮の大儒カンハンの名が刻まれている。カンハンが朝鮮で儒学を修め、官職も務めた人物。



教正寺・清水喜市顕彰碑

「郷土百人の先覚者」に選ばれた清水喜市は、部落解放の先駆者としてその功績が語り継がれている。教正寺は神崎郡水平社創立大会が行われた場所。

姫路定住促進センター跡地「感謝碑」

日本のインドシナ難民受け入れに関して、「この感謝碑はベトナム難民を受け入れ、世話してくださった日本政府はじめ、諸団体・個人に対し感謝の意を示すために建てられたものである」とベトナム語と日本語で刻まれている。

姫路城におけるバリアフリー

「平成の大修理」において、車椅子での見学を可能にするためのバリアフリーが進められた。歴史文化財にどのようにバリアフリーを進めるか、「姫路福祉マップをつくる会」と調査を行った。



西御着総合センター皮革資料室

皮革資料室には、啓発・広報活動を通して伝統的皮革産業への理解を深めるため、地域住民だけでなく広く交流を図りながら見学・視察・体験等年間を通して行い、多くの人々に皮革産業の実態や実像を発信する役割がある。

姫路市平和資料館

1945年のB29による空爆で廃墟と化した姫路の町の復興の歩みを伝えている。また、原爆症研究の父・都築正男博士（姫路市初の名誉市民）の功績を伝える展示もある。

